

## ■各回生、みんなで創り上げよう！「思考廻廊」■

後輩たちへのメッセージを、60m超の額縁に！

同窓会副会長

思考廻廊推進委員会 委員長 小田恵介(19回生)

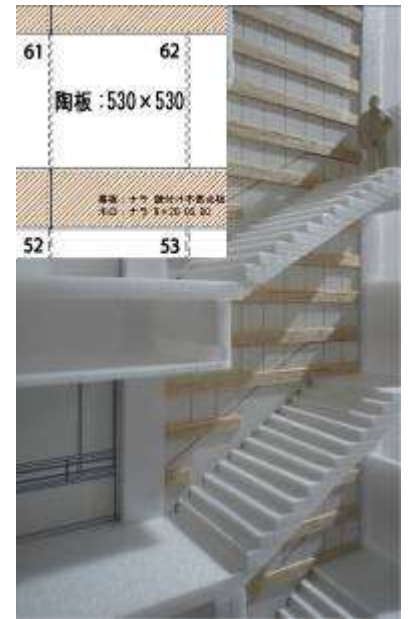
これまで卒業生が毎年個々に卒業記念品を寄贈してきましたが、今回の新校舎建設に鑑み、今春59回生の卒業記念品として「思考廻廊」が寄贈されました。

「思考廻廊」とは、2012年末、第2期工事で完成するアプローチ正面の階段室の北側壁面に後輩たちへのメッセージを兼ねて、「卒業記念パネル」を毎年はめ込んでいくための仕掛けです。寄贈されたのは、卒業記念パネルを下段から順次積み重ねていくための額縁部分です。企画・構想は乗富久哉氏(27回生)に、パネル製作は福田寛氏(17回生)、堀澤哲哉氏(19回生)に協力していただいています。

同窓会としては、同窓会活動の一環として、新校舎竣工に合わせ、すでに卒業された回生も含め、すべての回生の思いを具体的な形として残すことを企図した「思考廻廊」事業に取り組んでいます。ついては、各回生ごとにメッセージパネルの作成をお願いします。100回生、あるいは200回生までも、附設の未来へ繋げようという壮大な試みに、皆様の積極的な参加をお願いします。

メッセージパネルは、大きさタテ530mm×ヨコ530mmの大版タイルです。各回生ごとに話し合い、後輩へのメッセージを取りまとめいただき、2012年3月末までにお寄せください。

詳しくは、[同窓会ホームページ](#)をご覧ください。別途、回生代表世話人を通じて、皆様に改めてご連絡いたします。



## ■附設初代校長・板垣政参氏の故郷：気仙沼に追悼碑を発見■

同窓会長 長谷川房生(13回生)

7月、初代板垣政参校長の出身地、岩手県の気仙地区に行きました。1896年(明治29年)に発生した、明治の三陸大津波の折の最大の追悼碑に出会いました。当時、板垣校長の父上政徳氏が気仙郡長をされており、揮毫を父上がなさっていました。この度の、奨学金義捐活動との不思議な縁を感じました。



## ■『修羅救世』有志活動の中間報告■

事務局長 増田恒夫(13回生)

あの未曾有の大震災から半年ですが、報道によれば現地の復旧は遅々として進んでいません。復興へは10年以上の時間を要し、長期的な支援が求められています。

校歌の一節『修羅道の世を救うべく』と、震災により、親、兄弟を無くし、家も流され、大学進学への夢を奪われた子供達(推定1200名以上)に、その夢を無くさないよう、月々小額ですが支援金を4年間送ろうという主旨で、6月末に、附設高校同窓会の応援を得て、社会貢献を目指す有志活動を始めました。

規約等の詳細は、[同窓会ホームページ](#)をご参照下さい。

広報力の弱さも有り、未だ全員の方にお知らせ出来ていませんが、もう少しで、震災孤児一人の大学進学へのお手伝いが可能な所迄来ています。目標は、震災に遭わなかった皆様の幸運の一部を、一人で、二人でも多くの子供への支援へ向けて頂き、多数の方のご協力で少しでも増やせればと願っています。

現地でご自身も被災された、附設OB小川先生(20回生塩竈高校物理)と連携して、皆様から寄せられた基金全額を、来年4月より、その子供達へ届けられる様にします。会員諸氏の支援の輪を広げて下さるようお願い申し上げます。支援して下さる方は以下に支援金を振り込みお願い致します。

◆振込口座 筑邦銀行本店口座本店営業部店番(001)普通3027203

久留米大学附設高等学校同窓会 震災育英基金

◆振込金額 1口1万円として、2口以上(1口未満でもお受け致します)

(振込手数料は振込者をご負担ください)

◆振込期間 平成23年6月1日より平成24年2月末日まで

## 久留米大学附設高等学校同窓会

## 会報

同窓会ホームページ <http://www.fusetsu.gr.jp>  
 随時更新していますので是非ご覧ください。



久留米大学  
 附設高等学校同窓会  
 〒839-0862 久留米市野中町 20-2  
 TEL 0942-44-2222  
 FAX 0942-44-8257  
 ◎卒業生数 11,295 名

## ■前会長挨拶■

母校、50年に一度の大事業に、同窓会が一致団結して協力

前同窓会長 古賀暉人 (10 回生)



2006 年 同窓会会長に就任とともに 校舎建設への協力を依頼されました。同窓会として、母校の為に何が出来るかと云う観点から、単に募金活動だけでなく、附設卒の優秀な建築家が協力をすれば、素晴らしい学習環境が適正な価格で出来ると考えました。それで小田副会長を中心とするアーキテツ 21 が結成されました。しかし、それによる立派な提言も大学本部からは そのままは 受け入れませんでした。同窓会の熱意は 感じてもらえています。樋口校長の後任の古田校長が 1 年で退職され、一時は大学側主導の建築になるかと思われましたが、現吉川校長は 建築に関しても、非常に積極的で 大学本部も校長の手腕を高く評価され、アーキテツ 21 の意見を入れたものが出来る事になりました。

寄付金募集に先だて、重永副会長を中心として、同窓会名簿を発行する事になり、個人情報保護の観点から、住所確認、情報公開範囲の確認の為に葉書を出しました。その過程で、多くの卒業生が終身会費を納入されました。なお 名簿は 29 回生 猪飼英隆氏の力によりますが、IT 化する事により、個人情報保護だけでなく、費用が予定の約 25%と大幅に削減出来ました。募金金額は 1 億円の目標でしたが、結局 5 千万円で終わりました。そこで 終身会費の 5 千万円を加えて 1 億円 母校に寄付する事になりました。初代同窓会 西牟田会長が何か有事の時に使う為 苦労して集められた終身会費が母校の為に使えた事は有り難い事でした。募金集めには 中村副会長を中心として、各学年代表を決める事で同窓会の結束が出来た事は意義が大きいと思います。校舎建設と云う 50 年に一度の大事業に同窓生が一致団結して協力出来た事、それにより、更に同窓会組織が強化されたことは、同窓会として大変喜ばしい事でした。

## ■会長挨拶■

「日本一の同窓会」をめざして、より縦の関係の活性化を

同窓会長 長谷川房生 (13 回生)



皆様には常日頃、同窓会活動にご協力を頂き有難うございます。昨年、古賀会長より引継ぎ、本部や各支部、各OB会の新旧役員は母校と同窓会に積極的に貢献する「新しい同窓会」を目指して、力を合わせて頑張っています。同窓会の目的は、「1 互助、2 親睦、3 母校の発展」の 3 項目です。これまで各回生の「親睦」は進んでいますが、縦のつながりが弱い点があり、「互助」の側面が不十分に思われます。そこで、縦の関係を活性化し「互助」の側面に力を入れていきたいと考えています。

実は、附設高校OBの皆様方の保有する物的、知的、技術的資産を合計すると、その総額は莫大なものがあります。私たちが人生を歩いていく中で様々な体験の中から蓄積してきた大変尊い資産です。これを同窓会員同士で活用しあっていけば、さらにより良い人生や社会生活を築いていくことが可能だと思います。さらに、私たちの社会的パフォーマンスの高まりと共に、「母校の発展」にも寄与していくことができると思います。

私自身、附設高校卒業生から 2 度命を助けられました。ビジネスの面でも多くのOBの皆様に使われています。できれば、仕事も、趣味も、結婚、就職も、「附設OB共同体」のようなものが作られ、最大限お互いに役立ちあっていくようになっていけば、素晴らしいな一と思っております。日本に二つとない「日本一の同窓会」をめざして活動して参りたいと存じます。皆様の積極的なご支援とご協力をお願い致します。

## ■同窓会から環境整備費として 5000 万円を寄付、母校で贈呈式■

今春 4 月 29 日の母校の「男く祭」において、長谷川房生同窓会長から吉川敦校長へ新校舎建設に伴う新たな教育環境のための整備費として、5000 万円の寄付の贈呈式が行われました。これは多くの卒業生から寄せられた大学を通じての個人の寄付金 5000 万円とは別に、同窓会として、終身会費の積立の中から母校発展のために寄付されたものです。さらなる環境整備に役立つことを願っています。

